

1 部会名

授業づくり部会



2 研究テーマ

子どもの学びが充実する授業づくり ～個別最適な学びの研究を通して～

3 研究の取組

(1) 研究内容

「子どもの学びが充実する授業づくり」について研究する。その際、学びの充実に向けた「個別最適な学び」に焦点を当て、後述のような視点・取組を通して研究を進めていく。

① 研究所員個人における「授業づくり・指導方法の研究」

個別最適な学びの研究を柱に、研究所員が課題と考える以下の視点について、各々が授業実践を行う。

A：課題設定の工夫 B：子どものつますきへの支援方法 C：教科等横断的な学びの充実

② 研究所員相互における「授業実践の共有と改善」

授業実践を共有し、成果や課題を協議することで、実践の改善・より良い実践方法の探究を図る。

(2) 研究計画

月 日	研修内容	月 日	研修内容
5月9日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	11月21日	授業実践を踏まえた研究内容の協議
6月30日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	2月6日	1年次のまとめ
10月9日	授業実践の共有	2月20日	1年次報告提出

4 研究の成果と課題

授業づくり部会では、「子どもの学びが充実する授業づくり」、中でも「個別最適な学び」に焦点を当てた協議を重ねた。そして「授業づくり・指導方法の研究」における、以下の3つの視点を踏まえた実践について情報を交換することができた。

- ・ **課題設定の工夫**について、各教科等の見方・考え方を働かせた課題を設定できるようにしたい。そのための課題設定の仕方については、「課題の質」や「課題の設定者」、「課題の難易度」等の多様な側面から課題設定を研究していく必要がある。
- ・ **子どものつますきへの支援方法**について協議を重ねていく中で、「教師が児童生徒のつますきをどのように支援するか」という教師サイドからの視点に限らず、「児童生徒が自己の特性や課題を知り、自ら課題解決に向かえるようにする」という学習者サイドの育成に目を向けていく必要性が見えてきた。
- ・ **教科等横断的な学びの充実**については、「学習の目標や目的を広く、発展的なものにさせるための1つの手段」あるいは「各教科で身に付けさせたい力を習得・活用する学習過程をデザインするための1つの手段」として、教科等横断的な学びの充実は前向きな効果が期待できる。その取り入れ方や実践方法について、既存の研究実績等をもとに、協議検討をしていく余地がある。

5 さらに研究していきたいこと・次年度の構想

- ・ 「子どもの学びが充実する授業づくり」、そして学びの充実に向けた「個別最適な学びの実現」を研究内容とする。
- ・ 令和7年度に協議した以下3点の視点に基づいた授業実践を共有し、協議改善を行う。
A：課題設定の工夫 B：子どものつますきへの支援方法 C：教科等横断的な学びの充実
- ・ 他部会からの情報も収集し、児童生徒指導／学級経営／特別支援教育等の多様な側面から授業改善を図れるよう、研究を推進していく。